

医系技官がみたフランスのエリート教育と医療行政

入江美美著 (NTT出版・3024円)

毎日新聞
2015.11.22.

パリ同時多発テロに揺れるフランスとはどういう国なのか。フランスのエリート養成機関である国立行政学院(ENA)に2007年から2年間留学した著者(厚生労働省九州厚生局医事課長)が見たフランス見聞録だが、日本とは何かを再発見する比較文明論にもなっている。オランダ大統領の出身校でもある

ENAのカリキュラムは文書作成能力や交渉力など徹底的な実践重視。現役の上級国家公務員のもとでさまざまなことを体験し、卒業時には成績順に省庁やポストを選ぶ。日本では考えられないようなエリート教育の定義にこだわるフランス人は生活困窮者への扶助を「積極的連帯所得手

当」と呼び、日本のような「保護」でなく、連帯という言葉を使う。

本書は終末期医療などフランスの

社会保障、医療制度を詳細に紹介。

医療事故補償など日本が学ぶべき点

も多いが、逆にだれもが容易に医療

機関にかかれる日本の国民皆保険の

長所も浮かび上がる。ただ、それを

支えているのは日本の医療従事者の

過酷な勤務。医療破綻を憂える著者

は、原理・原則に立ち返るフランス

人の発想に学んではと訴える。(小)